

将来認知症高齢者の介護に関わる可能性のある人への支援 —ストレスマネジメントを促進するための研修内容の検討—

深山 つかさ* 京都橘大学看護学部
小野塚 元子 京都橘大学看護学部

本研究の目的は、将来認知症高齢者の介護に関わる可能性のある人を対象に実施した研修会を評価し、介護者のストレスマネジメントを促進するための研修内容を検討することである。研修は、「介護者のストレスを緩和できるように認知症や認知高齢者について理解するとともに、BPSD への対応や介護に伴うストレスに対する介護者自身のストレスマネジメントを高めるための具体的な方法について学ぶ」ということを狙いとして実施した。評価は研修前後で認知症高齢者に抱く「親しみやすさ」のイメージ、将来介護することに対する負担感、一般性セルフ・エフィカシー尺度の測定、研修1年後面接を行った。研修後、認知症高齢者に抱く「親しみやすさ」のイメージの数値が低下した対象や「将来介護することに対する負担感」を重く捉えたままの対象がいたため、講義や研修内容は認知症高齢者に親しみやすさ、将来の介護に対する負担感のイメージを軽減できるような内容にすることが大切である。また、セルフ・エフィカシーは3名が研修終了後高まっていたが、講義やグループワークを通して、知識を得たり他者から励ましを得ることによってセルフ・エフィカシーの増強につながった可能性が考えられ、研修会は、単に講義を聞くだけではなく、グループワークでの意見交換の場を設けることも重要であると考えられる。

キーワード ⇒ 認知症高齢者, 介護者, ストレスマネジメント, 研修